





門 4  
號 3698  
卷 3

増補 三卷目録

第一

第二

第三

第四

第五

第六

第七

第八

第九

第十

第十一

小石川 傳通院  
金杖村乃 天神

金剛寺

吉乃極樂の井

関村目白乃不動

曹司谷法明寺

半乃穴八幡宮

築土の明神附赤木乃明神

堀巻此井

柏木右衛門橋

混音金王様

金剛寺

東洋書院

早稲田大学 図書館  
25.4.12  
蔵 本







世とがり舟なるの想はもとどろろゆるはる流りあふとて一説云  
不登泊と名解して。十六夜の花とゆららる。定らるる人あり  
ぬ下。扱又取れはる。愛あわめて。学向とてささめ。古きうみ舟の  
心とあふ。去程は常習れ切化とて。眼と作痛いさし  
及散る。舟の思登とてささめ。ゆと成業はらふひらへ  
り。扇構那の舟花とらし。藍の麻とひらへる。加業  
の胸に流して。只蓮乃流とてあふ。ゆと成業はらふひらへ  
ゆと成業はらふひらへる。蓮の葉とひらへる。念作  
あふとてささめ。三心具足の麻とてささめ。三心具足の麻と  
期えん 強流れ人乃心小舟。流とてささめ。流ゆらん

舟に渡る

又案よあつたはゆ葉とてささめ。流とてささめ。流ゆらん  
ゆと成業はらふひらへる。蓮の葉とひらへる。念作  
あふとてささめ。三心具足の麻とてささめ。三心具足の麻と  
期えん 強流れ人乃心小舟。流とてささめ。流ゆらん

舟二 金枝村乃天神

さすられり金枝村の天神へあるはる。念作











お道也乃乃内あ方に新家乃家あは遠くはなれりて橋も  
か只二極よ終頭とけりてあそびて一人一方に毎ふ生て  
松の本一方に柏あくとふ貫と御くもてせう橋也爾乃  
年の回縁以後神社仙寺かたりては依りあそびあ或地と  
く西とらうゆりてとさうがまひらうらうらあそび也

第12

吉水乃極楽の井

そもてらう吉水の極楽乃井へ移りてらう。是はそらう極楽  
院乃深山不空と人吉水の寺小あそびせし。新女かたりて何  
らりてと人よまらんとむら。此乃際有ととあけと人あ  
強迫の中教他力乃定気師相お事理俱伏の面  
と念仏小あそび。新女は極楽生の理よあひ。寺戒血脈

と極楽の極楽とて。此は極楽とて。極楽の極楽  
とあけむら。八雲山八年乃は。八蔵利根の新女南  
極の成道とて。けり。此は極楽の極楽とて。あ  
あり極楽の今。高極とて。あ方小極生ん。まこと十  
極生乃せのや。あ方小極生ん。あ方の理あそび  
は。新女は極楽とて。あ方小極生ん。まこと十  
極生乃せのや。あ方小極生ん。あ方の理あそび

第13

実村目白不動

いどとて。この事。実村乃目白不動。あ方小極生ん。まこと十  
極生乃せのや。あ方小極生ん。あ方の理あそび  
は。新女は極楽とて。あ方小極生ん。まこと十  
極生乃せのや。あ方小極生ん。あ方の理あそび









潭とらして孫子目蓮上人曰る所勝なりと目蓮の弟子は  
 あぶそむとて天衣乃流衣とて名を目蓮宗とすなり寺と  
 概しては此といふありてなりてなりてなりてなりてなりて  
 乃肉迦の作一石目蓮上人の淨教道舎乃天竺師なり  
 捨僧於石目の精舎を名をいして修りて修りて修りて  
 楠西成乃書室の教を修りて修りて修りて修りて修りて  
 此教とありて鬼子母外十羅女の母とて法苑持身儀乃  
 終也是れと名他の本儀也その傍の村ありてと目蓮  
 とらふ所天西六年に守りて守りて守りて守りて守りて  
 東照行住持也世乃四時高首の十石の佛館と名寄附  
 ありてありてありてありてありてありてありてありてありてありて



















まぐに...  
七人...  
...

元...  
...

第八

...

...

...

七人...

第九

...

第十

...

...

...

...



























































一 皇子権柄の事と人西邊物自覺の帳  
一 身延山にあり藤原春持の自覺の帳

一 数珠一連

一 一人乃以消息教わき

一 肉甘の畫一枚を上人の世にるふゆの事也

一 貞宗乃ちの一振

あつちやくふ 池と乃花のうらうらえんげれ

あつちやくふ 西祖師と花の池とをみる

猿の男一首 長く常々山に宿よなる妙法蓮華經の目蓮

【第廿二】 小川寺水月觀音

そのとらると小川へといきく行ふ室と松原京那小川へ今花  
ふか目觀音乃堂ふけくば心の中いば信大願女置け

本寺也間信檀金の乃觀音乃之像也。本寺は新羅宮也。本寺の  
あつちやくふ大願入唐歸朝の後実東山通國のほのむに  
乃押領使某小跡をくめて家よつて宗なる小川に京  
是と云人志代お侍しておん堂ふ居をりて他念め教  
信せしむ。新羅年中に福念の名をお氏公の時よつて  
と秋禪秀乃と合致さう時小川の二門皆討死せしむ。こよ彼  
心本寺の事。新羅堂の内よつておんをり。右面を合若源お侍入  
久しく小川と知れり。海く彼本寺と信ん大檀がふあり  
あつちやくふそのこよ。本寺西國商人おれ志念せしむ。像也。本  
寺はこれにて。南堂にて觀音堂とて。こよ。び。屋ふ。信ん。あ  
かめ。な。ら。ぬ。本。寺。元。年。正。月。本。道。權。望。乃。お。ふ。う。つ。り。て。南  
寺。院。小。十。金。所。為。て。と。と。と。文明。十。年。七。月。よ。道。權。望。乃。











江戸にせんせり。ゆこせりたるを「搦ま」とりかたり。新嘉坡の月  
 とす。えい月と申せり。ゆこせりたるを「搦ま」とりかたり。新嘉坡の月  
 二、三の月、ゆこせりたるを「搦ま」とりかたり。新嘉坡の月  
 奇とて、えい月と申せり。ゆこせりたるを「搦ま」とりかたり。新嘉坡の月  
 よ、ゆこせりたるを「搦ま」とりかたり。新嘉坡の月  
 入るるに、ゆこせりたるを「搦ま」とりかたり。新嘉坡の月

びーん、花の... 十里... 十里... 十里... 十里... 十里... 十里... 十里... 十里... 十里... 十里...

てか... 朝... 朝... 朝... 朝... 朝... 朝... 朝... 朝... 朝... 朝...



